

平成28年度第1回相生市総合教育会議会議録

日 時	平成28年4月27日（水）14時00分から15時06分
会 場	市役所1号館 3階 議員控室
出席者	谷口 芳紀 市長 武本 尚 教育委員長 山本 綾子 教育委員長職務代行 栗原 英子 教育委員 小西 毅 教育委員 浅井 昌平 教育長
説明員	越智 俊之 企画総務部長 玉田 直人 教育次長（管理担当） 石堂 賀人 教育次長（指導担当） 西角 隆行 参事（生涯学習担当）兼生涯学習課長 宮崎 義正 管理課長 坂本 浩宣 学校教育課長 小西 まこと 体育振興課長 横山 和彦 人権教育推進室長 三浦 貴史 管理課副主幹（書記）
傍聴者	2名

1 開会

2 市長挨拶

4月2日には、相生市文化会館も開館記念式典を滞りなく執り行わさせていただくことが出来た。皆様の多大なるご尽力とご理解のおかげであり、改めてお礼を申し上げます。

いよいよ平成28年度がスタートした。今年は地方創生元年ということで、相生市では、「もっと活力上昇計画」を実行する。

この計画の中では、これまでの子育て・教育を通じたまちづくり施策に加え、「ワンピースイングリッシュAIOI」により、更なる教育の充実を図ることとしている。また、文化会館が開館したので、この文化会館を文化・芸術の拠点としてだけでなく、臨海部の活性化の拠点と位置付け、まちづくりを行うこと。これに加え、本市の

魅力発信として、シティープロモーションを柱とした、相生の創生に取り組んでまいりたいと考えている。

私は、これまで同様、教育に重点を置いたまちづくりを進めてまいりたいと考えているので、委員の皆様の格段のご理解とご協力を賜るようお願い申し上げます。

### 3 協議事項

#### (1) 大綱の策定について

##### 管理課長

総合教育会議で協議いただく事項として、地教行法の規定により、教育に関する大綱の策定という項目がある。大綱の策定にあたっては、教育振興基本計画を策定している自治体においては、総合教育会議で教育振興基本計画を大綱として代えると判断した場合、大綱を策定する必要が無いと、文部科学省の通知にある。

平成27年度第1回の会議において、「現在の相生市の教育は、教育振興基本計画に基づき進めており、現時点において極めて良い形で進んでいるということで、相生市教育振興基本計画を大綱に代える。」と決定をいただいた。

この教育振興基本計画については、昨年度見直しを行い、平成27年度第2回の会議において、教育振興基本計画の見直し（案）について、提示させていただいた。その後、この3月に相生市教育振興基本計画を改訂したので、改めてこの計画を大綱に代えるかを協議いただくものである。

事務局案としては、第1回目会議での決定があったので、教育振興基本計画を大綱に代えていただいていたとは考えている。

概要は、基本的な考え方は従来どおり維持しつつ、ワンピースイングリッシュAIOIや文化会館の自主事業など、現状に合わせた事業展開についての記述を加えるなどの見直しを行ったものである。

##### 谷口市長

大綱については、今年の1月の会議において、計画案を事前に拝見しているが、従来の計画と方向性が変わったわけではなく、学校教育審議会と社会教育委員会議において議論いただき、現状に合わせた見直しが行われたので、従来どおりこの教育振興基本計画を大綱として代えることで充分ではないかと思う。

##### 武本委員長

これまでの教育振興基本計画の方針を変えず、今の良い形を維持し、総合教育会議での議論から考えていただいた新たな取り組みを加えたものであり、私も市長の意見に賛同する。

## 各全員

異議なしの声

## 教育次長（管）

大綱の策定については、改定した教育振興基本計画を大綱に代えるということで決定する。

大綱の策定は、総合教育会議の協議を受け、市長が策定することとなっており、本日の協議結果に基づき、事務手続きを進めさせていただく。

## 3 協議事項

### （2）相生市の教育に関する重点施策について

#### ア 平成28年度の重点施策について

## 管理課長

平成28年度の重点施策については、相生市教育振興基本計画に基づき進めさせていただいている平成28年度の「相生の教育」の主な事業を提出させていただいた。今年度についても、これまでの事業結果を検証し、効果の高い事業を継続しつつ、本資料6ページに平成28年度の主な事業を掲載させていただいた。

（管理課より行政順に事業概要説明）

管理課 「小中学校学習環境充実事業」

学校教育課 「相生型小中一貫教育事業」、「ぐんぐん学力アップ・フォローアップ事業」、「ワンピース・イングリッシュ・AIOI事業」

生涯学習課 「相生市文化会館管理運営事業」、「放課後児童保育事業」

体育振興課 「ジュニアスポーツ推進事業」

人権教育推進室 「ケータイ・スマホ教室に実施」

## 浅井教育長

今年度から始めたワンピースイングリッシュは、4月11日からスタートさせていただいている。幼稚園長に確認したところ、教師は、FLTとコミュニケーションをとるのに苦労しているが、子どもたちは自然にコミュニケーションをとっているということで、大変賑やかで極めて新鮮であるということ、また、子どもたちは積極的にFLTに接しており、FLTもしっかりと子どもたちに返してくれている。日常生活の中にこういった英語を取り入れたことで、今後が非常に楽しみであるというような感想をいただいている。これから、これが充実してくるものと大変期待している。

## 谷口市長

2つの系統でF L T 2人が幼稚園をまわるのか。

## 学校教育課長

幼稚園は、一方が派遣会社の方から女性のF L Tが幼稚園を順番にまわりながらカリキュラムを指導していく。もう一方は私塾の方から、アメリカ出身とカナダ出身の男性2名に来ていただいている。いろんな方に教えていただきながら、日常的な関わりを子どもたちが喜んで行っている。そうした中で、発音とか、正しく聞き取る耳であるとか、そうしたものを育てていったり、日常的なふれあいを通すことで異文化理解という部分も深まっていくように考えている。3名が巡回をしていくが、年間約50日程度子どもたちはF L Tと関わるということが出来る計画となる。

## 武本委員長

ワンピースイングリッシュの事業は、非常にユニークで期待している。英語がしゃべれるようになるということが本来の目的ではなく、英語が話せることによってコミュニケーション能力が高まる、コミュニケーション能力を高めるために、ワンピースイングリッシュの事業があるという捉え方も大事だと思う。先生の方が入り込むのに少し時間がかかりそうということを知ると、先生のコミュニケーション能力を高めていただく良い機会だと思う。子どもたちはかなりそういう面でいっているみたいなので、このワンピースイングリッシュというのが単に英語を話せるようにするというだけではなく、コミュニケーション能力を高める事業という考え方が大事ではと思う。

## 学校教育課長

先生の方も毎日来ていただくということで片言ではありながら、単語を思い出したり、耳を澄ましたりしながら一生懸命コミュニケーションをとろうとしている。普段とは違う表情ではあるが、大変生き生きといつもと違った活動をしてくれているように見ている。

## 小西委員

教育振興基本計画が大綱になると、何がどう変わっていくのか。

## 管理課長

大綱と計画の違いは、この会議では、相生市の教育の方針である大綱を決める会議となっている。振興計画については、教育委員会が決めることとなっている。大綱になったから何かが変わるという事ではないが、相生市の方針を網羅的に定めたものを大綱と言う。そういった網羅的に定めた計画をこの会議の中で協議するというのが法の趣旨である。先ほど市長も委員長も言われたように、この計画の中にはこれまでの相生市の方針であるとか、そういったものを網羅的に定めてあるので、新たにその大

綱をこの会議で定めるまでもなく、これを大綱に置き代われば良いのではという決定をいただいたので、これまでと何ら変わりはない。

#### 小西委員

計画が実行に移せる体制になりましたということが大綱ということで理解すればよいか。

#### 管理課長

この計画で実行に移せる体制である。地方教育行政の組織及び運営に関する法律というものがあるが、その中で大綱を定める必要が新たに出てきた。元々、こういった計画がある市町については、その大綱をわざわざ新たに定める必要はないということであり、相生市においても、これを大綱として置き代えるということで、新たにというものではない。

#### 教育次長（管）

大綱と教育振興基本計画の大きな違いは、教育振興基本計画は教育委員会が定める計画である。大綱については、平成27年4月1日に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、市長と教育委員会が合同で定める、というのが大きな違いという事で、内容については同じという事で決定いただいたが、その部分が一番の違いとなってくる。

#### 各委員

平成28年度の重点施策について、了承の声

#### 教育次長（管）

ご意見を踏まえ、平成28年度の事業を進めていく。

### 3 協議事項

#### (2) 相生市の教育に関する重点施策について

##### イ その他

#### 教育次長（管）

総合教育会議は市長と教育委員会が、教育に関する諸条件整備や重要施策について協議や意見調整を行っていただく会議となっている。今後の教育について、教育委員長の相生市の教育に関する所感をお聞かせいただき、続いて市長の教育に関する所感をお聞かせいただき、その後、市長と各委員による自由意見交換を行っていただきたいと考えている。

## 武本委員長

教育委員を拝命し10数年になるが、私の印象として、最初の頃よりも現在の相生市の教育行政というものは、かなり透明性が高まったと思っている。例えば教育委員会から各幼稚園、小中学校に対して、各幼稚園、小中学校から教育委員会への情報発信、教育委員会に対する透明度などが、こちらから見ているところ透明性が高まった非常に良い方向に進んでいると思っている。教育行政で大事なことはワンウェイにならないこと。必ずツーウェイにならないといけない。いろいろな情報を発信してもそれがフィードバックされるという体制づくりが非常に大事だと思う。教育委員会が発信するのは、学校現場に発信する情報もあれば、それを通じて子どもたちに発信する情報もある。あるいは地域社会、市民に対する情報発信もある。それに対して、小中学校あるいは子どもたちからのフィードバック、それから保護者、市民からのフィードバック、これがツーウェイでお互いに情報発信あるいはフィードバックされる関係が高まっていくことによって教育の活性化、スムーズな関係というのが成り立っていくのだろうと思う。それから、学校の先生と教育委員会事務局との関係が随分良くなってきたと思う。これを更に高めることによっていろいろな教育の大綱とか、方針がスムーズに浸透していくし、問題点があからさまにフィードバックされるという関係ができていくのではないかと思う。これからはますますそういった面に力を入れていく必要があると思う。教育委員会だよりという一般市民に対する情報紙も出来、そういったものを増やし、教育委員会、相生市の教育の活動や方針を情報発信して市民の末端まで理解をいただくということが非常に大事だと思う。そうすると、相生市はますます活性化したいいきいきした市に発展すると思う。これは教育だけに限らず、まちの活性化というときに、地方自治体の活性化の目標は、教育と、それから相生の場合は高齢者が元気になること、いきいきすること、この2つが私は市の活性化の柱だと思っている。そういう面で総合会議は市長を頭にしてどんどん活性化することを期待している。

## 谷口市長

総合教育会議の3回目の開催となり、これまでの会議で委員長をはじめ各委員から現在の相生市の教育の状況について、非常に良好であるといったお話、また、今後の向かうべき方向性の意見をいただいている。このような意見を踏まえ、市の考えを2点申し上げる。

まず、学校教育分野については、評価をいただいた良い状態を継続させるために学校、家庭、地域が同じ方向を向いて子どもを育て、見守ることが重要ではないかと考える。そのためには、国に先んじて昨年度スタートさせた幼・小・中の地域まるごと繋がりの中での一貫教育を一層推進することが大切であろうと考える。一層の推進のためには教育委員会にリーダーシップを発揮していただくこと、また、地域や家庭に協力をいただく必要がある。学校現場の先生方には多大な苦勞をお掛けすると思うが、今が一番大切な時期だと思う。成果が出るには相当の時間を要するかもしれないが、相生の幼・小・中一貫教育は素晴らしいと言われるようなものを是非作り上げていた

だきたいと思っている。そういった取組が今年度から開始するワンピースイングリッシュAIOIの事業効果にも結び付いてくるものと思う。ワンピースイングリッシュAIOIの幼児期からFLTを専属で派遣する英語活動への取組は、全国的には非常に珍しく、近隣他都市にはない新しい取組である。私はこの事業で相生市の新たな道を切り開いてまいりたいと考えている。

また、生涯学習分野では、子どもから大人まで、スポーツ、文化芸術を楽しめるソフト分野の環境づくりを進めていただいているが、今年度は新しい文化会館が開館した。今後の方向性を左右する大切な年であるので、文化会館を文化芸術のみではなく、市の活性化の拠点として創意工夫により最大限に活用していただきたいと思う。

最後に、まちづくりは人づくりと考え、今年度、教育を柱とした相生市の地域創生の取組をスタートさせる。相生丸の船出の年になる。武本委員長をはじめ、各委員にはこれまでと変わらぬ格段の理解と協力をお願いを申し上げる。

### 栗原委員

幼稚園に行かせてもらったなら、子どもたちがすごくいきいきしていて、身近に使う英語を、教えてもらったならすぐに出ているのを先生方が目の当りにして、すごく楽しいですと言われていた。先生方も勉強したいと言われていた。普通に身構えずに英語に触れる機会があるというのを小さい時に経験したものというのは強いものがある。私も楽しみにしている。

### 山本委員

今、学校では今年度の計画を練り上げているところだと思う。その中で、様々な内容とうまく合わせながら学校としては、四苦八苦してゐるのではないかと心配もしている。学校は学校でやりたいこと、それと市から出てくる施策、大綱と併せて子どもたちを大きく育ててあげたいという気持ちがあるが、多くの事を取り入れようとすると、どれも手につかずという心配もある。英語も大切であるが、やはり元々の基礎学力を付けてやるのが学校の成すべきこと、人づくりも含めて、そういう学力を網羅していくという意味でやっていくのが大事なかなという思いである。教育委員会として、出来る限り協力し、市長の助けもいただきながら、うまく子どもたちのために作っていったら、育てていけたらと思う。それは親が喜ぶことであり、地域も成長していくことに繋がると思う。学校があまりプレッシャーにならないようにやっていけるといいなという思いを持っている。

### 小西委員

市内の企業では今、ベトナム人が来ている。その人たちの姿勢を見てびっくりした。すごくまじめで、一生懸命で、日本語も覚えようとしている。多くの企業がフィリピンやマレーシアの人を最近では採用している。英語が喋れるから。雇用しても即戦力になるということを知ると、やはり英語を話せるということは大事なのかなと思う。しかし、これをすぐに直結させて答えを出すということは非常に難しい問題だと思う。

ただ、気後れしないということは大事だと思う。外国人が来ても、一言二言、簡単な英会話と言うか、案内くらいは出来る、挨拶くらいは出来るというところまでがきっかけとして、目指すべきではないかと思う。

先ほど武本委員長が言われたことに非常に感銘を受けた。この数年間の間に情報交換がワンウェイじゃなく、よく出来るようになったとか、透明性がアップしたとか、先生と教育委員会の関係が良くなったと言われたが、なぜ良くなったのかということを知りたいと思った。

### 武本委員長

今まで我々教育委員に対して十分な情報が入ってきていなかった。こちらも考える素地まで出来ないような状態があったが、今は教育委員の方にも情報が入ってくるようになったというのが一つにある。それに対して、我々も気が付くことがあれば言いやすくなるし、バックアップもできる。もう一つは、学校の先生が、指導主事とか社会教育主事とかで教育委員会に入っただけでこられる。教育委員会で経験されて学校に戻られる。このローテーションが密になったという印象を受ける。それが教育委員会に対する先生方の理解も深まってくる。そういう面、それが基本だと思う。そういった雰囲気が大きくなったように思う。それが、浅井教育長になってから進んだと思う。率直な印象。

### 浅井教育長

私が一番心掛けたのは、教育委員会の5つの部署が1つとして動けるようにということで、それぞれの課が独立して仕事をするのではなく、出来るだけフラットにしようということであった。一番大切なことは、情報共有だと思う。情報を共有すれば、困難な仕事も扱いやすい情報に変わっていくだろうと思っている。同じ考え方で教育委員の皆さんとの情報共有を図っている。

英語教育については、2020年には文科省の方から制度的に小学校、中学校において英語教育を切り替えていかなければならないということになっている。その中で、出来るだけ小学校に、義務教育のところに負担がかからないようにするためには、その一つ下の幼稚園の段階である程度の素地を作っておくことによってどうしてもやらなければならない小学校の段階で子どもの負担も、また、教員の負担もある程度軽くなるのではと考えている。

例えば、谷口市長に給食を無料化していただき、さらに幼稚園でも給食を提供できるようになった。そのことによって今まで小学校1年生で、箸の持ち方、茶碗の持ち方、そういったところを指導しなければならなかったのが、幼稚園の3年間をかけて子どもたちにしっかりとそういったところを教え込む、生活習慣をきっちりと教え込むことが出来るようになったので、小学校へ行けば先生の負担、子どもの負担も軽くなる。それと同じような考え方で、幼児教育の段階で出来るだけのことをやっておけば、後の負担も軽くなるのではと考えている。

それと連携して、今、一貫教育の中でのその一つの流れとして、行っていけるのではと考えている。これも情報共有の考え方である。情報を共有することによって、先ほどの「透明性」に繋がっているのではないかと考えている。

### 栗原委員

不登校で保護者に問題がある場合、どこまで学校が情報をもっているかということもあると思うが、何か問題が起きていることがないかと、少し気になる。家庭に問題があると教育としてはそこまで踏み込めないと思う。

### 浅井教育長

不登校とか、家庭に問題があるということで、平成25年度から予算をつけていただき、スクールソーシャルワーカーを1名配置させていただいた。今年度から更に、適応教室の指導員に先生のOBを2人に増やしていただいた。それによりさらにきめ細やかにやっていけると考えている。不登校が増えている校区もあり、そこを重点的に先生のOBでカバーしていただくように考えている。

### 武本委員長

教育委員会の範疇になるかどうか、非常に難しいところがあるが、健全な子どもの教育が出来るように、親御さんの勉強会、研修会といったものが出来ないのかと思う。学校の先生だけでは限界があると思う。

また、子育てについては、人生初めての体験で、どうしたら良いのかわからないということで非常に苦しんでいるという保護者もいると思う。そういう相談窓口があったら良いのかなと思う。例えば、虐待を受けている子どもが逃げられる場所があれば、子どもを守れると思ったりする。難しいでしょうが、必要じゃないかなという気がする。

### 浅井教育長

育成センターがその役割を担っている。教育基本法が改正され、子どもの教育について第一義的な責任は家庭、保護者だというふうに法律に明記されている。しかし、その後の例えば事件事故が起きた場合に家庭や保護者の責任を問う判例がどこにもない。法律でそこまで謳っているならそこへ判決、判例の中で触れて欲しいというところがある。

### 谷口市長

小西委員が言われたフィリピンとかマレーシアの人は、日本語を母国で勉強してからこちらに来ているのか。

### 小西委員

教育する機関があって、そこで訓練を受けて日本に来ることになる。普通の生活の

会話は多少出来る。彼らの目つきが違う。学ぶ姿勢が違う。

#### **教育次長（管）**

今回いただいた意見を踏まえ、事務局として施策に反映すべく検討させていただき、また、関係部課とも協議をし、次回、秋頃に予定している本会議までに平成29年度以降の取り組みとしてご説明させていただく。次回の会議の場において協議をお願いする。その協議結果により、予算措置が必要な事項については、翌年度以降の予算措置について反映できるよう努めてまいりたいと考えている。

#### **武本委員長 閉会の挨拶**

**平成28年度第1回相生市総合教育会議を終了**